文教常任委員会行政視察（概要）

１　視察日
　　令和６年５月１３日（月）～１４日（火）

２　視察項目（視察都市）
　　・部活動の地域移行について（周南市）
　　・ＵＢＥビエンナーレ（現代日本彫刻展）について（宇部市）

３　参加委員
　　委員長：福丸　孝之　副委員長：青木　順子
　　委　員：大嶺　さやか、西本　睦子、山下　慶喜、桂　　睦子、長谷川　浩

４　調査概要
　周南市では、部活動の地域移行について、少子化が進展する中で従前と同様の体制で学校部活動を運営することが難しくなってきたため、将来にわたり中学生が文化芸術・スポーツ活動等に継続して親しみ、楽しむことができる機会を確保するため、「周南市地域クラブに係る方針」を策定した。この方針では、部活動改革により中学生が多様な活動に取り組める環境づくりの方向性を示しており、円滑な部活動改革を推進するため、「やってみたい」、「多様性」、「地域の居場所」という３つの基本方針を定めている。
　宇部市で実施されているＵＢＥビエンナーレ（現代日本彫刻展）は、戦後の住みよいまちづくりを目指す市民運動からまちを彫刻で飾る運動が広がり、これをきっかけとして昭和３６年に開催された「第１回宇部市野外彫刻展」が始まりである。これは、野外を会場とする全国規模の彫刻展の先駆けであり、野外彫刻にまちづくりの視点を導入した企画として国内初のものとされており、令和６年３月にはギネス世界記録にも認定されている。

宇部市にて

５　委員長所感
　周南市では、部活動の地域移行を令和８年度から完全に移行するスケジュールで進んでおり、スピード感をもって取り組まれている。また、移行後に複数の団体に所属することが可能な仕組みは、こども達がフレキシブルに学びを深めることができる良い取組である。一方、団体の月謝等の費用負担が懸念事項であると感じた。
　宇部市のＵＢＥビエンナーレは、前身の野外彫刻展から６０年以上も継続していることは尊敬に値する事業であり、宇部市にとってなくてはならないものであると感じた。また、小学４年生の全生徒が彫刻鑑賞授業を受講するなど教育分野にも連携していることは、こども達の非認知能力を育む上で有効的であると感じた。